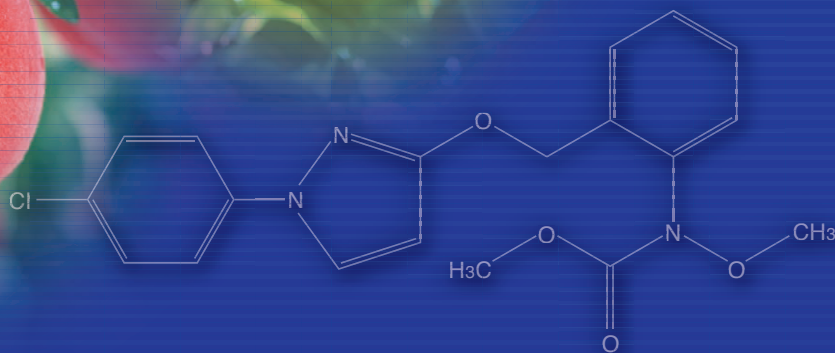
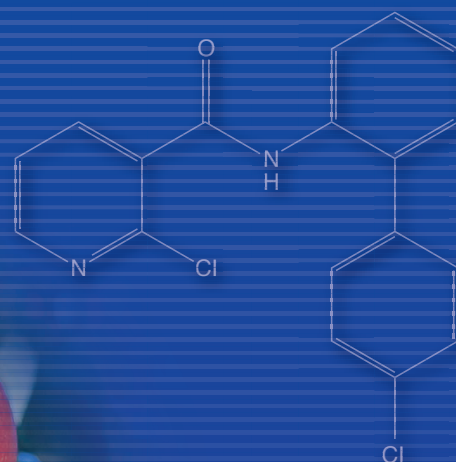


幅広い効果と持続性のプレミアム殺菌剤

果樹用殺菌剤

ナリア[®]WDG



 **BASF**

We create chemistry

®=BASF社の登録商標

新開発のピラクロストロビンとボスカリドを混合。 梅雨期から夏期の果樹園を悩ませる病害を、まとめて長期間防除します。

果樹生産者が抱える病害と重労働の悩みは、暑い時期に更に大きくなります。

それを解決するひとつの答えが、果樹用殺菌剤「ナリアWDG」です。

ナリアWDGはBASF社が開発した2つの有効成分、

ストロビルリン系のピラクロストロビンとカルボキサミド系のボスカリドを含有する混合殺菌剤です。

本剤はりんごやなしなどの果樹病害に対し、幅広い抗菌スペクトラムと持続性に優れた殺菌剤です。

ナリア[®]WDG の特長

有効成分および物理的・化学的性状

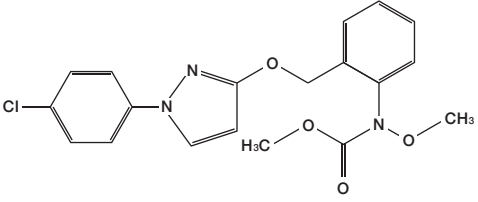
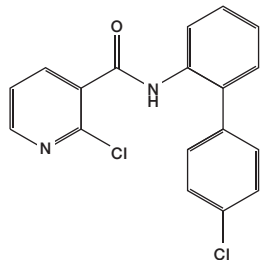
登録番号：第21795号

商品名：ナリアWDG

一般名：ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤

剤型：WDG(Water Dispersible Granule／顆粒水和剤)

殺菌剤分類 11,7

項目	ピラクロストロビン (BJL-993)	ボスカリド (BJL-994)
含有量	6.8%	13.6%
化学式	メチル=N-{2-[1-(4-クロロフェニル)-1H-ピラゾール-3-イルオキシメチル]フェニル}(N-メトキシ)カルバマート	2-クロロ-N-(4'-クロロビフェニル-2-イル)ニコチンアミド
構造式		
色調・形状	暗褐色粘稠固体	白色結晶状固体
融点	63.7～65.2℃	142.8～143.8℃
蒸気圧	2.6×10^{-10} hPa(20℃)	7.0×10^{-9} hPa(20℃)
水溶解度	2.4 mg/ℓ (20℃、pH7.0)	4.64 mg/ℓ (20℃、pH7.0)
オクタノール／水分配係数	Log Pow = 3.99	Log Pow = 2.96
熱安定性	約200℃で分解	約300℃で分解

1剤で夏期病害を防除

2成分混合により、斑点落葉病、黒斑病、黒星病、輪紋病、褐斑病など夏期病害に高い効果を発揮します。



広めの散布間隔

残効性に優れるので、広めの散布間隔でも防除ができ、梅雨期でもゆとりのある防除体系が組めます。



収穫前日※まで使用できる

果実への汚れも少なく、収穫前日まで使用できるので、早生種と晩生種との混植園でも使用できます。

※小粒核果類、大粒種ぶどう、かんきつは除く



安全性

人畜毒性(製剤)：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

急性経口毒性：LD₅₀ ラット ♀ 500～2000 mg/ℓ

急性経皮毒性：LD₅₀ ラット ♂ > 2000 mg/ℓ
ラット ♀ > 2000 mg/ℓ

皮膚刺激性：僅かにあり

眼刺激性：刺激性あり

皮膚感作性：感作性なし

魚毒性(製剤)

コイ：LC₅₀(96hrs) 0.28 mg/ℓ

オオミジンコ：EC₅₀(48hrs) 0.46 mg/ℓ

藻類：EbC₅₀(0～72hrs) 6.1 mg/ℓ

(原体での魚毒性区分：ピラクロストロビン C類 ポスカリド A類)

有用昆虫への影響

◎ 影響少ない

供試昆虫	ステージ	検討結果
セイヨウミツバチ	成虫	◎
セイヨウオオマルハナバチ	成虫	◎
チリカブリダニ	成虫	◎
タイリクヒメハナカメムシ	成虫	◎
ヤマトクサカゲロウ	幼虫	◎
蚕	幼虫	安全基準日数 21日



セイヨウミツバチ



チリカブリダニ

作用機作

本剤はカルボキサミド系化合物であり、細胞内ミトコンドリアの電子伝達系のタンパク質複合体IIに作用し、呼吸阻害作用で病原菌のエネルギー代謝を妨げ抗菌活性を発揮します。本剤は孢子発芽、発芽管の伸長および付着器の形成を阻害し、菌糸が植物体内へ侵入するのを阻止するため、予防効果に優れた作用を示します。本剤は浸透移行性を有しないが、葉内への浸透性があり、葉内の水分移動とともに葉先や葉縁に移行するため、耐雨性に優れ、散布ムラによる病原菌の感染防止に寄与しています。

ボスカリド

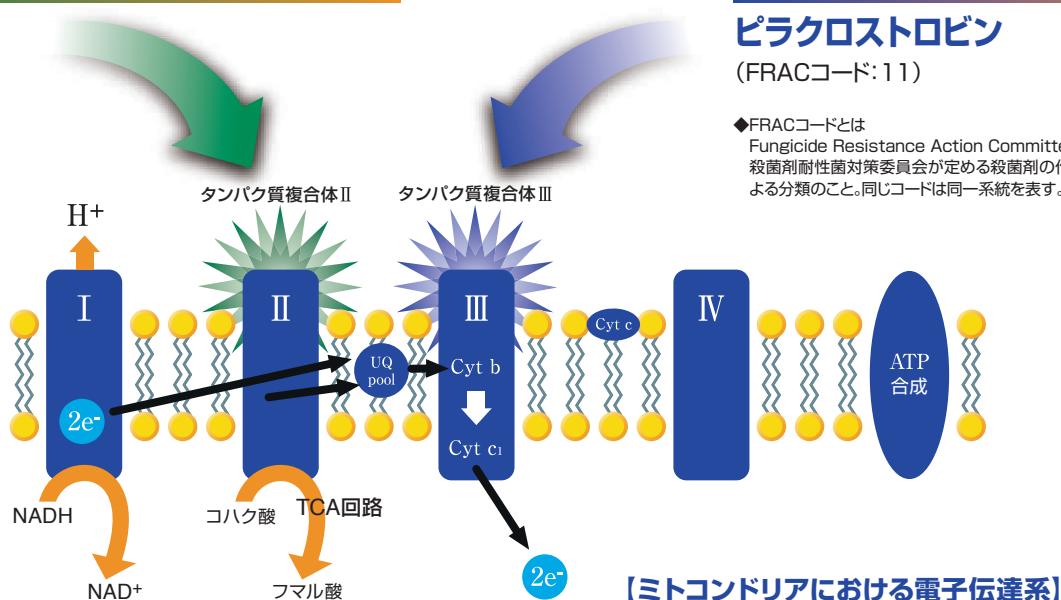
(FRACコード: 7)

本剤はストロビルリン系化合物であり、細胞内ミトコンドリアの電子伝達系のタンパク質複合体IIIに作用し、呼吸阻害作用で抗菌活性を発揮し、孢子発芽、発芽管の伸長、付着器形成および孢子形成を阻害します。なかでも孢子発芽を強く抑制し、予防効果に優れた作用を示します。本剤は浸透移行性を有しないが、葉内への浸透が認められ耐雨性に寄与しています。

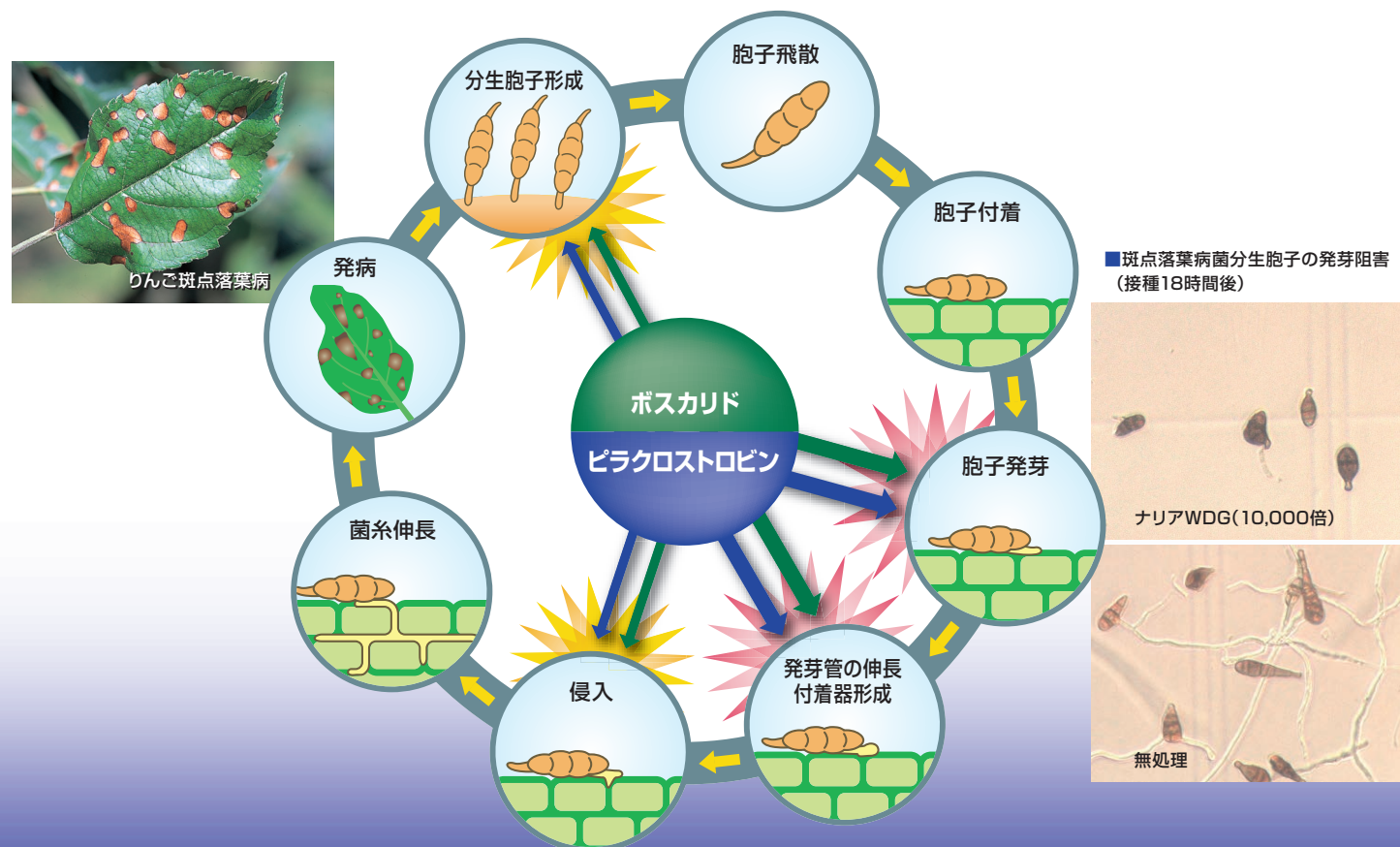
ピラクロストロビン

(FRACコード: 11)

◆FRACコードとは
Fungicide Resistance Action Committee
殺菌剤耐性菌対策委員会が定める殺菌剤の作用点、作用機構別による分類のこと。同じコードは同一系統を表す。



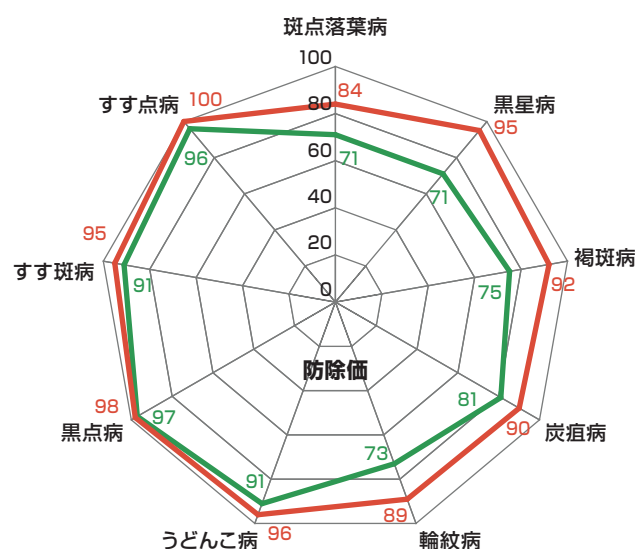
作用点



作用特性

■幅広い抗菌活性

りんご 病害に対する防除効果

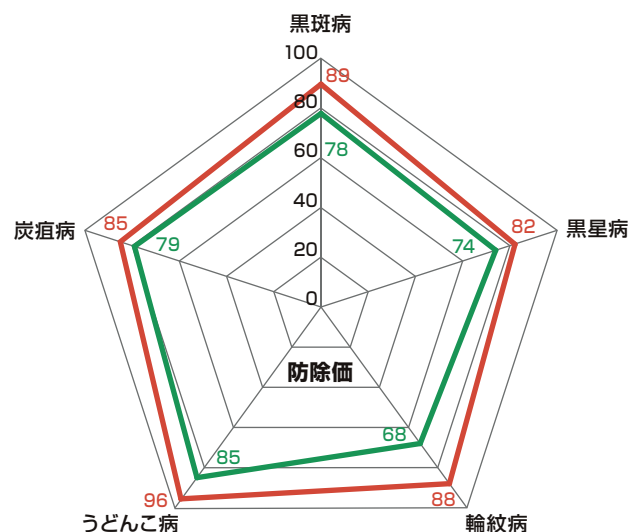


【りんご 試験事例数】

斑点落葉病	18	うどんこ病	7
黒星病	7	黒点病	9
褐斑病	18	すす斑病	15
炭疽病	9	すす点病	12
輪紋病	14		

— ナリア WDG
— 対照剤
または、慣行体系防除

なし 病害に対する防除効果



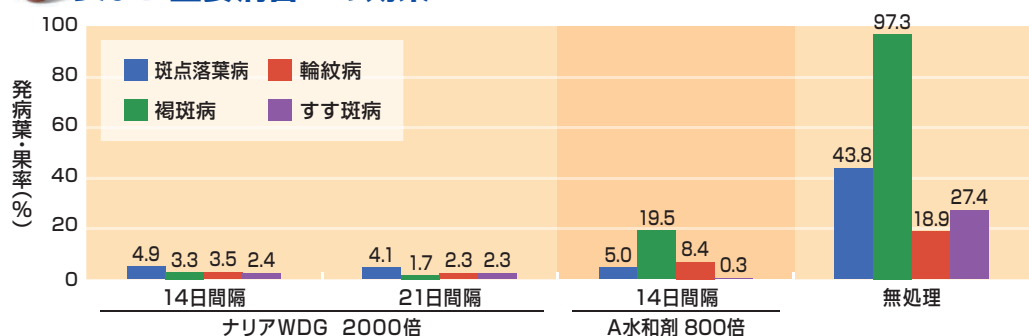
【なし 試験事例数】

黒斑病	12
黒星病	14
炭疽病	8
輪紋病	23
うどんこ病	8

— ナリア WDG
— 対照剤
または、慣行体系防除

(平成15～20年 委託試験で散布間隔約10～15日の試験結果の防除価で作図)

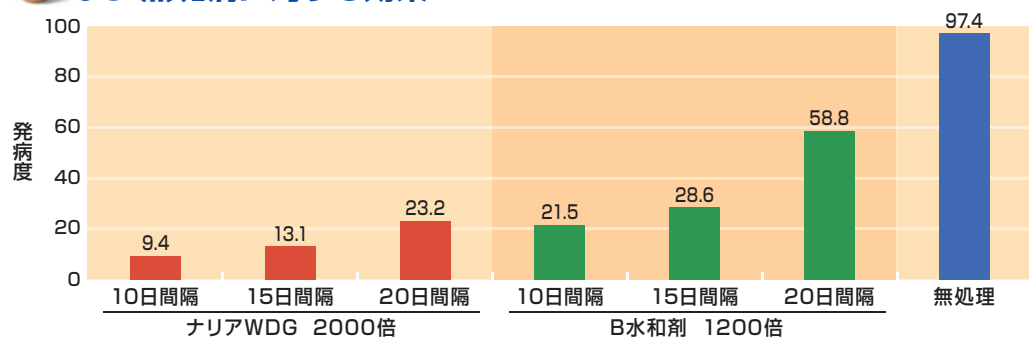
りんご 主要病害への効果



【試験方法概略】

品 種：ふじ
発病程度：斑点落葉病 / 中発生
輪紋病 / 少発生
褐斑病 / 多発生
すす斑病 / 少発生
散 布：14日間隔 6/9, 23, 7/7の3回
21日間隔 6/9, 7/2の2回
その後7/22, 8/4, 26に
有機銅(水)1200倍を散布
調 査：斑点落葉病 9/21,
褐斑病 9/9,
輪紋病、すす斑病 11/5

なし 黒斑病に対する効果



【試験方法概略】

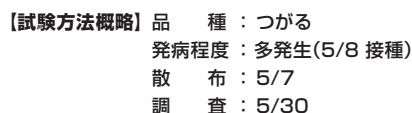
品 種：二十世紀
発病程度：多発生
散 布：10日間隔 5/6, 16, 27, 6/5,
16, 26, 7/2
15日間隔 5/6, 21, 6/5,
21, 7/2
20日間隔 5/6, 27, 6/16,
7/2
調 査：7/18



秋田果試(平成16年)



岩手農研センター(平成15年)



■ ■ ■ ■ ■ 感染期 ■■■■■ 発病期





試験結果事例 なし園で

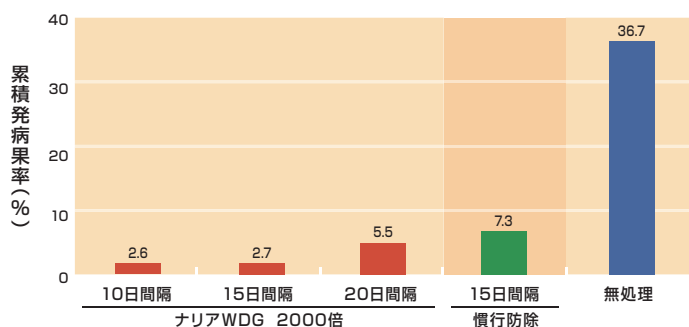
■輪紋病に対する効果

福島県試(平成15年)



【試験方法概略】

品 種：幸水 発病程度：多発生
散 布：10日間隔 6/21, 30, 7/9, 20の4回
15日間隔 6/21, 7/5, 20, 8/5の4回
20日間隔 6/21, 7/9の2回
慣行防除：6/21, 7/5, 20, 8/5の15日間隔 4回
調 査：収穫9日後までの累積発病果率



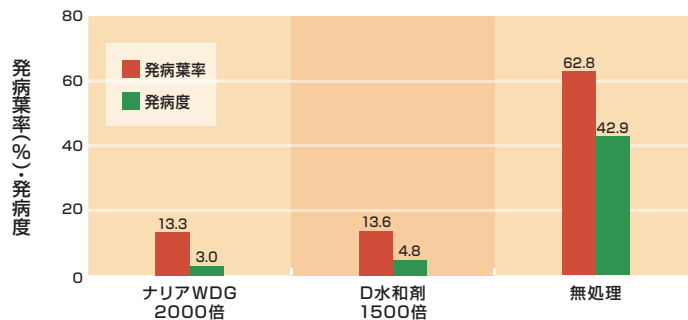
■黒星病に対する効果

鳥取県試(平成15年)



【試験方法概略】

品 種：幸水 発病程度：多発生
散 布：4/14, 28, 5/6, 16
調 査：6/4



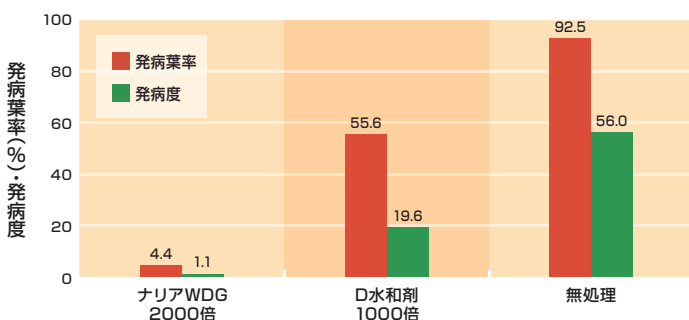
■うどんこ病に対する効果

長野県信農試(平成15年)



【試験方法概略】

品 種：豊水 発病程度：多発生
散 布：7/22, 8/1, 11
調 査：8/20



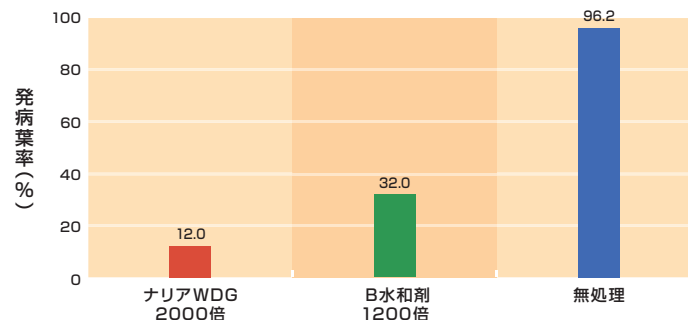
■黒斑病に対する効果

長野県信農試(平成15年)



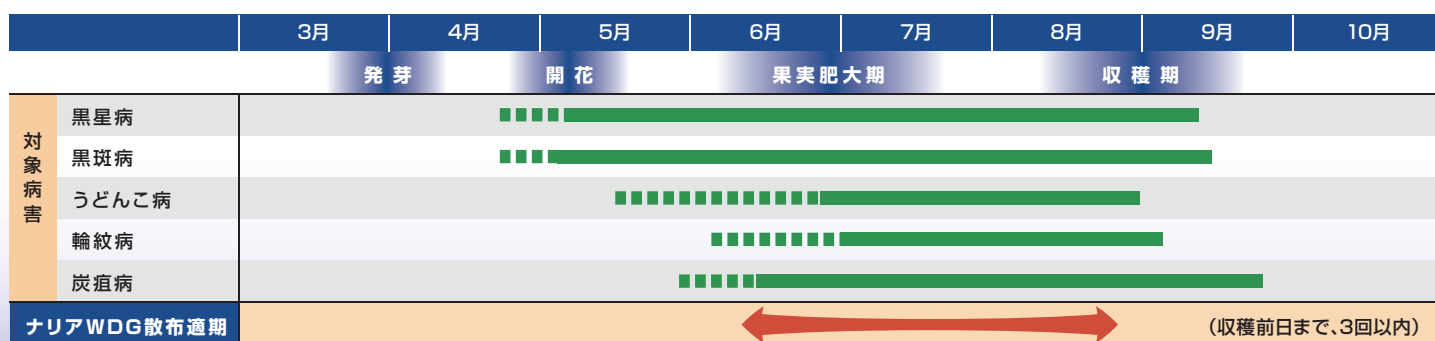
【試験方法概略】

品 種：二十世紀 発病程度：多発生
散 布：5/10, 20, 30, 6/9, 19
調 査：6/30



■対象病害発生パターンとナリアWDG散布時期(模式図)

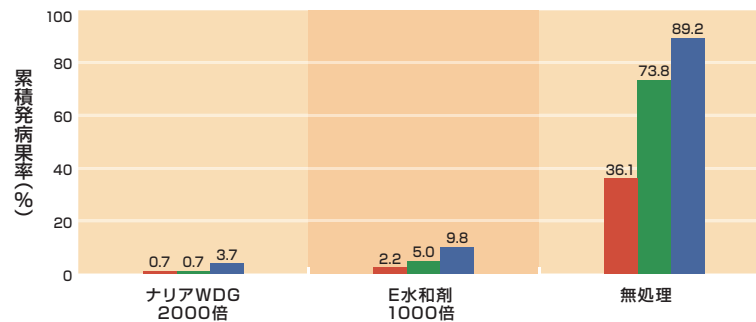
■■■■■■ 感染期 ■■■■■■ 発病期



開花始めから落花20日後までは薬害が生じるおそれがあります。



福島県果樹試験場(平成15年)



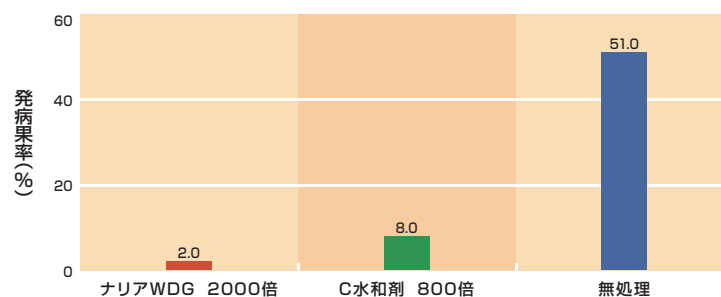
■ 収穫5日後調査

■ ■ ■ ■ ■ 感染期 ■ ■ ■ ■ ■ 発病期

(収穫前日まで、2回以内)



山形園試(平成15年)



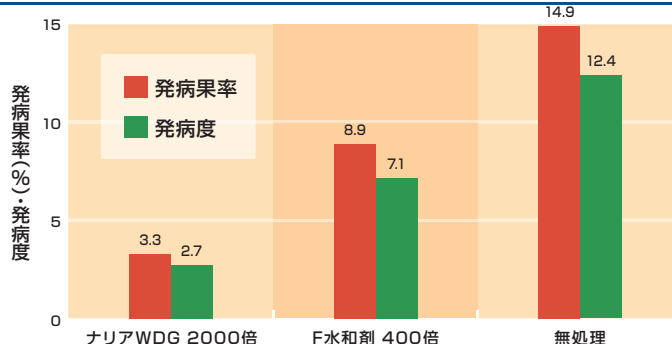
6/24調査

■ ■ ■ ■ ■ 感染期 ■■■■■ 発病期

(収穫前日まで、3回以内)



滋賀農総セ・果樹(平成16年)



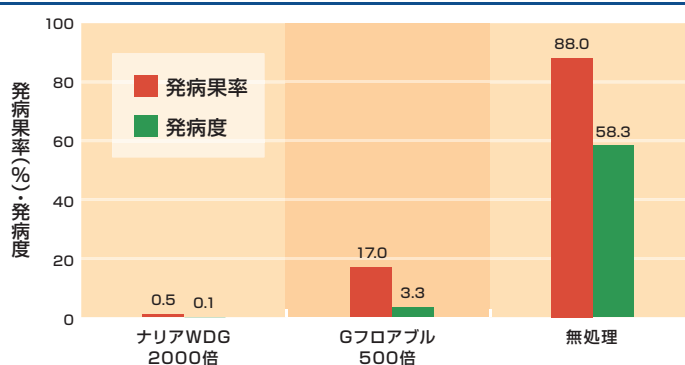
調 査 : 10/6

■ ■ ■ ■ ■ 感染期 ■■■■■ 発病期

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		発芽期		開花		果実肥大期		着色期	収穫期
対象病害	炭疽病								
	円星落葉病								
	角斑落葉病								
	うどんこ病								
ナリアWDG散布適期		(収獲前日まで、2回以内)							



鳥取園試(平成19年)



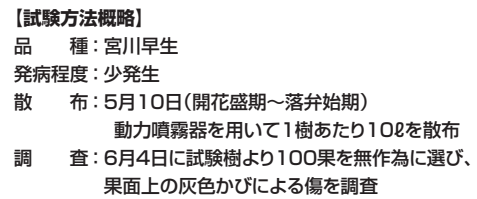
調 査 : 6/18

■ ■ ■ ■ ■ 感染期 ■■■■■ 発病期

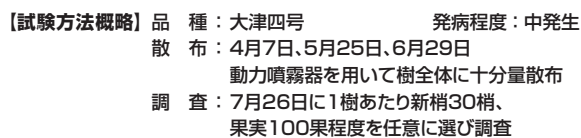
		3月	4月	5月	6月	7月
		開花		展葉期		収穫期
対象病害	黒星病					
	環紋葉枯病					
	すす斑病					
ナリアWDG散布適期		(収穫7日前まで、2回以内)				



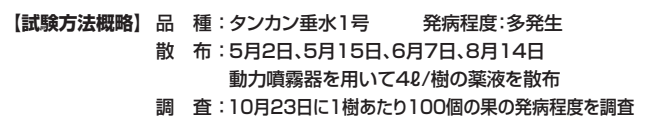
静岡県農林技術研究所果樹研究センター(平成19年)



大分県農林水産研究指導センター果樹グループ(平成23年)



鹿児島県農業開発総合センター大島支場(平成18年度)



■ ■ ■ ■ ■ 感染期 ■■■■■ 発病期

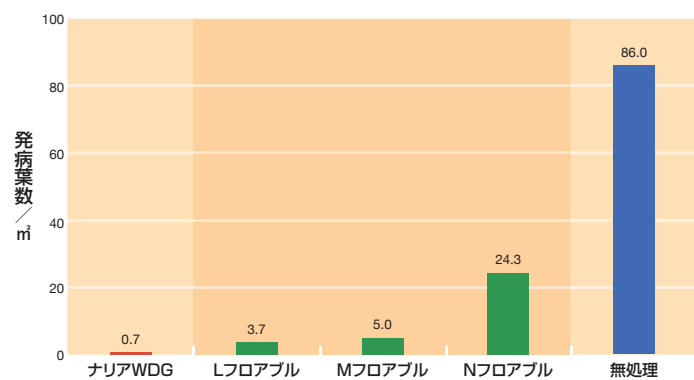




試験結果事例 茶で

■炭疽病に対する効果

静岡県島田市BASF圃場(平成24年)



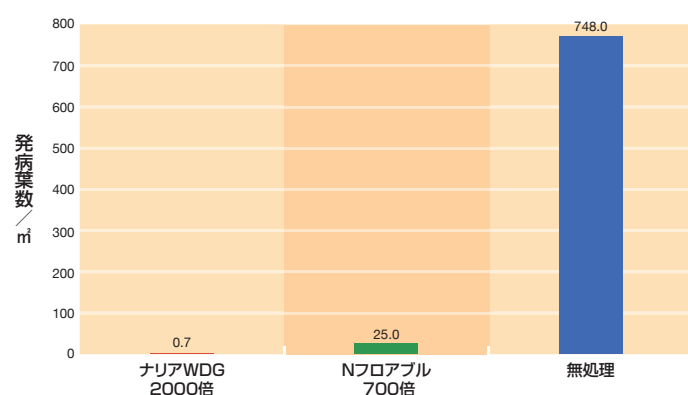
【試験方法概略】

作物(品種): 茶(やぶきた)
発病程度: 少～中発生

散布日: 6月10日、17日 0.5～1.0開葉期
調査日: 6月27日(最終散布10日後)
調査方法: 50×50cm枠を用い、各区4カ所(1g)の発病葉数を調査

■輪斑病に対する効果

鹿児島県農業開発総合センター
茶業部大隅分場(平成18年)



【試験方法概略】

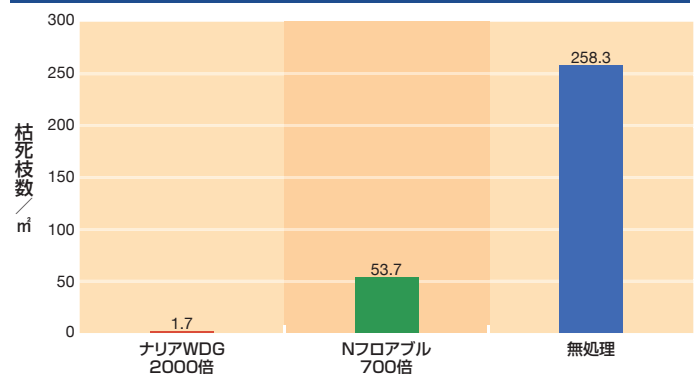
作物(品種): 茶(やぶきた)

発病程度: 甚発生(接種)

散布日: 7月18日 三番茶摘採
調査日: 8月1日(散布14日後)
調査方法: 100×50cm枠を用い、1区あたり2カ所(1g)の発病葉数を調査

■新梢枯死症に対する効果

静岡県農林技術研究所
茶業研究センター(平成18年)



【試験方法概略】

作物(品種): 茶(やぶきた)

発病程度: 甚発生(接種)

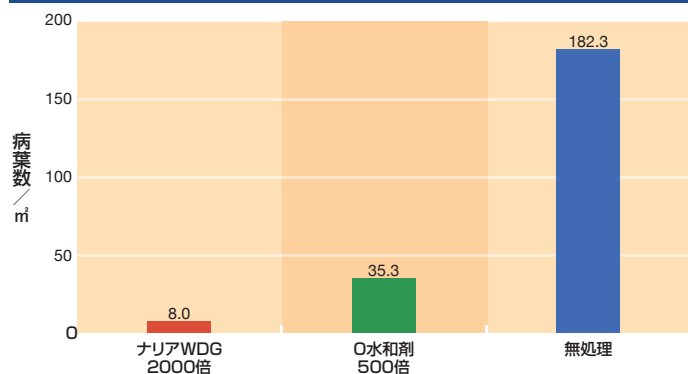
散布日: 7月28日 三番茶芽1～1.5開葉期および8月4日

調査日: 9月27日(最終散布54日後)

調査方法: 25×50cm枠を用い、1区あたり8カ所(1g)の枯死枝数を調査

■もち病に対する効果

静岡県農林技術研究所
茶業研究センター(平成21年)



【試験方法概略】

作物(品種): 茶(くらさわ)

発病程度: 中発生

散布日: 平成20年5月21日 二番茶萌芽期および5月27日

調査日: 6月10日(最終散布14日後)

調査方法: 各50×50cm枠を用い、1区あたり4カ所(1g)の発病葉数を調査



■対象病害発生パターンとナリアWDG散布時期(模式図)

発病期



- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。